

(2015年11月発行)

日本胃癌学会ニュース

日本胃癌学会 企画・広報委員会発行

第88回日本胃癌学会総会のご案内

第88回日本胃癌学会総会 会長 佐野 武 (がん研有明病院消化器外科)

会期： 2016年3月17日(木)～19日(土)

会場： 別府国際コンベンションセンター “B-Con Plaza” (大分県)

胃癌学会総会に多くの演題を応募いただき、ありがとうございました。

主題演題を絞り込み、一般演題はすべてポスターとして募集するという今までにない形をとりましたので、会員の皆様の反応を実は大変心配していましたが、思いがけず過去最多となる応募をいただきました。アジア各国からの演題も200を超えています。

プログラム概要を総会ホームページにアップしましたのでご覧ください。

主題セッションの多くは英語です。日本の研究、経験を多くの海外の参加者とシェアし、また彼らに十分理解してもらえる発表と討論を行うことで、私たち自身も胃癌をグローバルな視点から捉えられるようになると考えます。

初日(3月17日)は午後2時開始ですが、この日はすべて日本語です。「胃癌取扱い規約15版・治療ガイドライン5版に向けて」では、規約・ガイドライン委員から次版に向けての改訂作業の概要が示され、皆様の意見も伺います。「胃癌臨床試験：世界の試験総覧」では、化学療法および手術に関する世界の臨床試験を、お二人の演者にたっぷり解説していただきます。

2日目(3月18日)午後には、主題セッションと平行して「ESD研究会」も開かれます。こちらの演題は11月30日締め切りとなっています。

3月19日(土)には、教育講演として「英文論文はこう書く」、「胃癌臨床試験のプロトコールを書く」を設けました。後者はJCOGデータセンターのメンバーが参加者と対話方式を取りつつ講演してくれる予定です。

皆様に胃癌をたっぷり勉強していただける総会になるよう準備していますので、どうぞ別府へお越しくください。



「南こうせつミニコンサート」(3月18日)、
「佐藤優特別講演」(3月19日)もお楽しみに

第19回市民公開講座のご報告

太田 惠一朗 (聖路加国際病院消化器・一般外科)

平成27年10月10日(土)13:30から、東京都中央区の聖路加国際大学アリスC.セントジョンメモリアルホールで「知りましょう胃がんのこと～予防・検診・からだに優しい治療～」のテーマで市民公開講座を開催しました。

130名を超える参加者が集まりました。

講演に先立ち、当番世話人の太田惠一朗より「胃がんはがんで亡くなる方の中で1位ではなくなりましたが、数は減ってはいません。今日は、胃がんのことを予防から治療に至るまで勉強してください」と挨拶がありました。

先ず三木一正東邦大学名誉教授は、胃がんの一番の危険因子はピロリ菌への感染であり、「胃がんを予防するにはピロリ菌の除菌と禁煙だ」と話しました。近年、ピロリ菌感染の有無と加齢による胃粘膜の萎縮の有無を調べる検査を組み合わせた「胃がんリスク検診」が行われていて、検査の結果をA～D群に分類することから「ABC検診」と呼ばれており、ピロリ菌の感染も胃粘膜の萎縮もないA群は胃がんの発生率が1パーセント以下だと話しました。ただし同じA群でも未感染者と除菌後の方とは同じでないことも強調しました。全国で約9万人を検査したところ、がんの発見率が0.35%とX線検診より3～5倍高く検査費用も安いので、ABC検診を採用している自治体や企業が増加していると説明しました。

続いて聖路加国際病院消化器内科の石井直樹医長が、内視鏡による胃がんの検査と治療について話しました。色素や酢酸などを用いて早期胃がんを分かりやすくする方法、拡大内視鏡検査などの説明をした後に、高周波メスを用いた内視鏡治療の話をしました。低侵襲であり臓器が温存されるという大きな利点があり、早期発見、早期治療が大切であることを強調しました。内視鏡治療後のピロリ菌除菌の効果にも触れていました。

休憩の時間には、ピアニストのみのもとみこさんの、爽やかな秋のメロディーの曲の数々に心を和ませることができました。

続いて聖路加国際病院消化器・一般外科の久保田啓介医長は、腹腔鏡手術の現状について述べました。「腹部の傷も小さくて目立たず、術後の痛みが少ないため翌日から歩行も可能で、腹腔内の癒着も起きにくい」と説明しました。さらに、聖路加国際病院でも2013年からロボット支援胃切除術を始めたことも明らかにしました。

また、胃切除後は食事が摂りにくくなるが、食材の工夫や栄養剤も含めて必要なカロリーを摂取できるよう、医師、看護師、管理栄養士や薬剤師がチームで患者の栄養サポートをしていると説明しました。

その後、聖路加国際病院消化器内科の高木浩一副医長が、フッ化プリミジン系抗がん剤のほか、分子標的薬を使用した胃がんの薬物療法が行われていることを説明しました。薬物療法については「一般向けの説明書を参考にしたり、かかりつけ医に相談したり、専門医と相談して決めるのが良い」とまとめました。

最後に太田当番世話人の司会で、講師4人が会場からの質問に応じました。特にピロリ菌についての関心が高く、ピロリ菌とABC検診に関する質問が多く出ました。三木名誉教授は再度A群の問題点を強調、また検査方法が6種類あることにも言及しました。2時間半の公開講座は盛況のうちに幕を閉じました。





第 20 回市民公開講座のご案内

佐野 武 (がん研有明病院消化器外科)

日時： 2016年3月19日(土) 午後4時～5時30分
(第88回日本胃癌学会総会最終日)

会場： 別府国際コンベンションセンター “B-Con Plaza” 中会議室

「がん研有明病院が考える胃がんと付き合い方」

1. ピロリ菌と胃がん
2. 早期の胃がんを正確に診断する
3. 小さな傷で胃がんを直す
4. 抗がん剤と手術の強力タッグで胃がんと戦う
5. 胃がんの痛みから身を守る